



とともに、効果的な実施のための企画・立案をする役割で、教養教育実施部門であります。いま一つは研究開発部門で、大学教育全体のあり方、教授内容や方法の改善についての調査研究と具体的な改善・向上のための取り組みを役割としております。すなわち、大学における教育機能を充実し質的向上を図るためには、大学教育の開発研究を新たな研究対象として開拓すると同時に、大学教員が大学教育の改善活動を担う主体者としての力量を形成する活動を推進する、ファカルティデベロップメントに取り組む必要があるので、その役割も目指しているわけであります。ちなみに、本センターの英文名は Research Institute for Faculty Development となっております。

今年度、教養教育の実施と平成7年度の授業科目の企画・立案に当たったほか、大教センターの事業として ①3回のワークショップの開催、②授業評価に向けての学生による授業改善のためのアンケートの試行的実施、③カリキュラム改善のための専門学部での各種の調査・研究に対する支援、④年報の発行等を行いました。

ワークショップの概要は本年報に報告したとおりであります。 「大学における外国語教育のあり方」をテーマとして3月に開催した第3回ワークショップは、用意した資料が底をつき、追加印刷をするほど盛会で、話題提供も大変参考になるものでした。学生による授業改善のためのアンケートについても本年報に報告したとおりであります。教員が積極的に教育に取り組んだ成果が学生の学習にどの様に反映され、効果をあげているかを判断し、一層の改善を図るためには学生による授業評価が極めて重要な役割を果たしていることは諸外国の経験からも明らかであります。来年度はこの学生による授業改善のためのアンケートを普通の講義形式の授業だけでなく、外国語、保健体育、実験・実習等を含めて全教養科目にわたって実施することを目指しており、全面的に実施するための全学的合意を得るための検討を4月から始めたいと考えております。そのため、学生及び教員に対して行ったアンケートの回答を整理して、大教センターニュースとして発行するつもりであります。

大学教育の改善について忌憚の無いご意見と積極的な提言をお寄せ下さることをお願いすると同時に、本年報が教育改善のための資料として役立つことを念願しております。